

これまでの審査会合における指摘事項への回答について

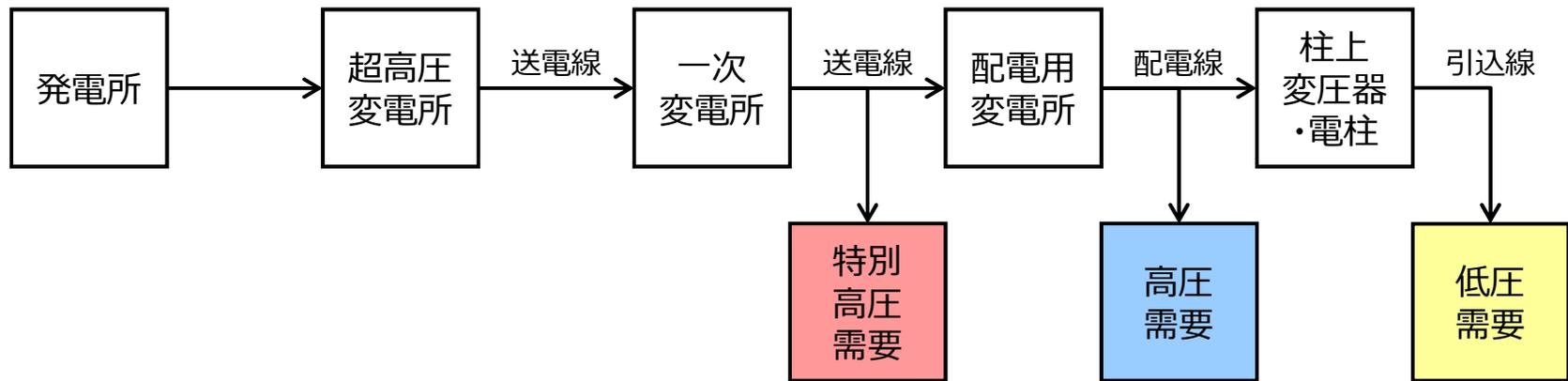
平成27年11月
中国電力株式会社

資料目次

指摘事項3	時間帯別メニューにおける昼夜間の料金格差	・・・P2~5
指摘事項5	設備の維持管理・更新の考え方	・・・P6

- 低圧のお客さまに電気をお届けするには、柱上変圧器や引込線だけでなく、それよりも上位の送配電設備も必要となることから、低圧託送料金原価には、これらの送配電設備に係る費用も含んでいます。

【設備利用のイメージと電圧別の送配電設備コスト】



対応する費用	アンソリサービス費 ネットワーク給電費等	受電用 変電費	送電費	受電用 変電費	送電費	配電用 変電費	高圧 配電費	低圧 配電費	需要家費
低圧	低圧供給に必要な設備								
高圧	高圧供給に必要な設備								
特別高圧	特別高圧供給に必要な設備								
	全電圧共通					高圧・低圧		低圧のみ	共通

- 電圧別の託送料金原価は以下のとおりですが、低圧の託送料金原価に占める低圧配電費の比率は約14%になります。

【電圧別託送料金原価】

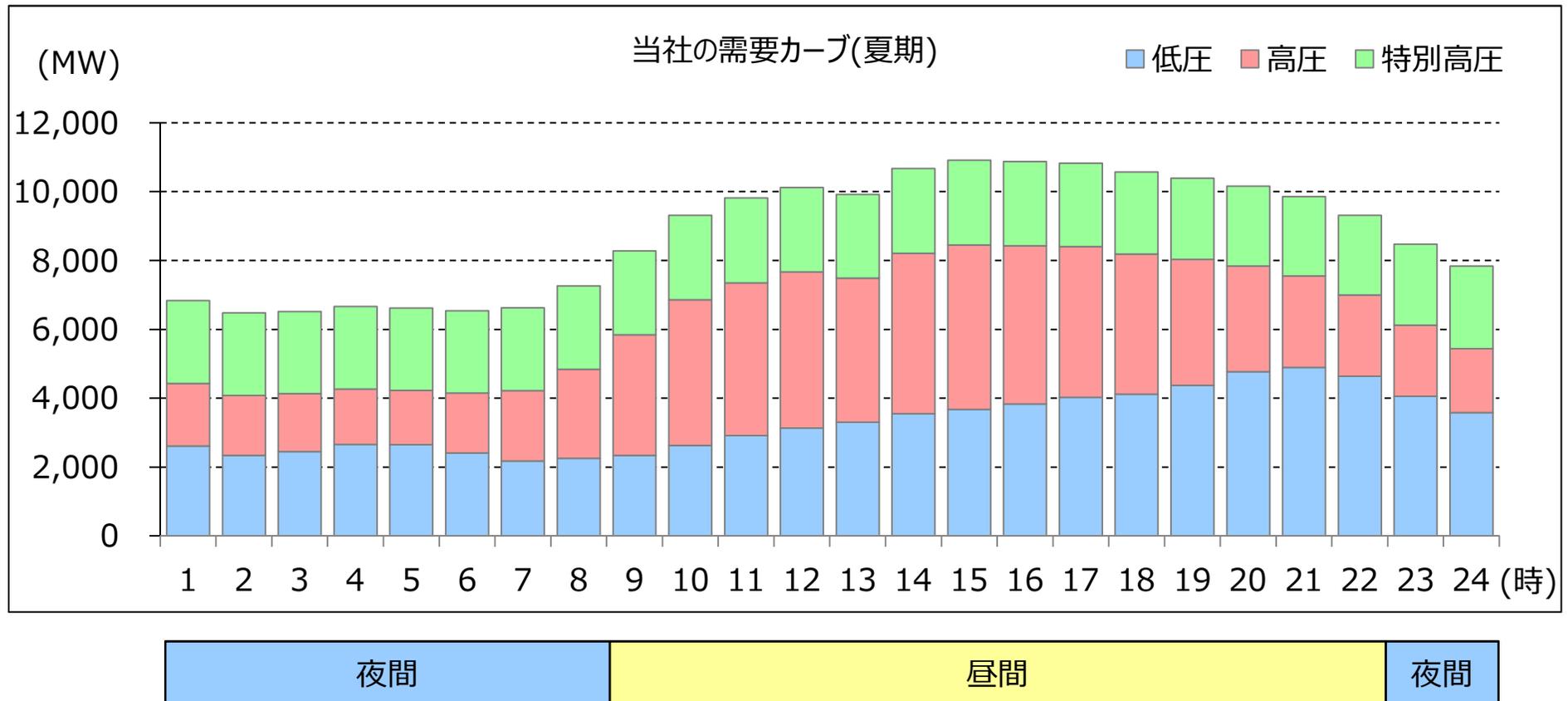
(単位：億円, (円/kWh))

	全電圧共通	高圧・低圧	低圧のみ	その他	計
	送電費 受電用変電費等	配電用変電費 高圧配電費	低圧配電費	需要家費等	
特別高圧	254.5 (1.28)	—	—	79.8 (0.40)	334.3 (1.68)
高圧	384.1 (1.97)	313.0 (1.60)	—	103.4 (0.53)	800.5 (4.10)
低圧	403.0 (1.94)	569.4 (2.75)	253.2 (1.22)	526.2 (2.54)	1,751.8 (8.45)

※ 金額は、原価算定期間の3カ年平均値。

低圧の託送料金原価に占める
低圧配電費の比率：約14%

- 送電設備と配電設備は一体的に形成されていることや、配電設備を共通で使用する高低圧の需要のピークは昼間に発生していること、また、低圧託送料金原価に占める低圧配電費の割合が限定的であることを踏まえると、現状では、系統全体の設備利用状況に基づいて時間帯別メニューの料金を設定することは、一定の合理性があるものと考えています。

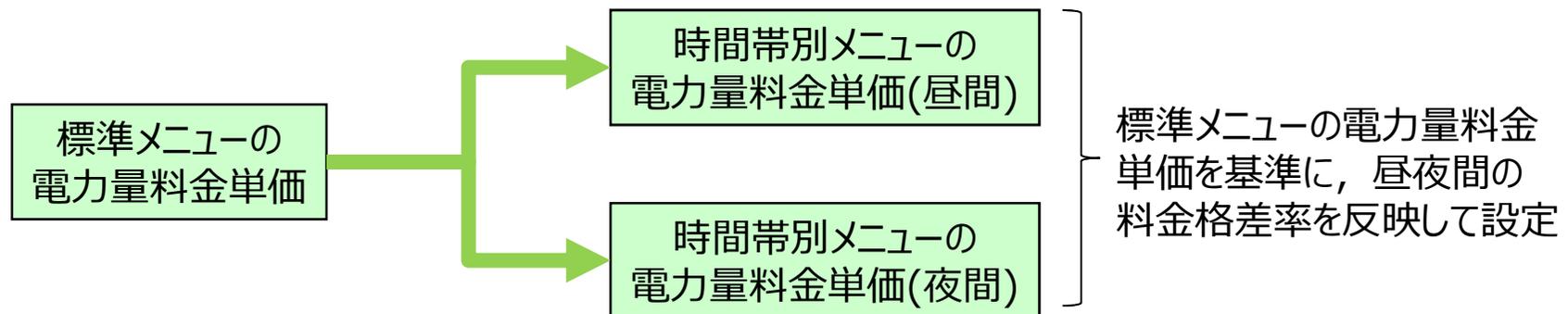


- 託送料金における時間帯別メニューの電力量料金単価は、標準メニューの電力量料金単価を基準に、系統全体の利用状況を踏まえて設定した昼夜間の料金格差率を乗じて算定しています(全電圧共通)。
 - 電灯託送料金については、供給約款料金との整合性を確保する観点から、基本料金単価を低水準に設定しており、その結果、電力量料金単価は高水準となっていることから、特別高圧や高圧に比べて、電灯託送料金の方が時間帯別の電力量料金単価の料金格差が大きくなっています。
- ※ 低圧託送料金には、送電費や変電費等、上位電圧と共用する設備に係る費用を含みますが、3ページでお示したとおり、販売電力量当たりの影響額は、特別高圧や高圧に比べて低圧の方が大きくなる傾向にあります。

【電圧別の電力量料金単価】

(単位：円/kWh)

	低圧(電灯)			高圧			特別高圧		
	標準	時間帯別		標準	時間帯別		標準	時間帯別	
		昼間	夜間		昼間	夜間		昼間	夜間
電力量料金単価	8.87	10.03	7.18	2.67	2.98	2.22	0.98	1.05	0.87



【指摘事項5への回答】設備の維持管理・更新の考え方

- 第5回電気料金審査専門会合で回答しましたとおり、設備の維持管理・更新にあたっては、点検や修繕による機能維持や診断技術の活用により、可能な限り設備の延命化を図ることとしています。その上で設備の劣化状況やトラブル発生時の影響などを総合的に勘案し、優先順位の高い設備から更新していくことを基本としています。
- また設備投資計画や修繕計画の策定にあたっては、中長期のコスト動向を把握した上で、コストの平準化や効率化による低減に努めています。

<固定資産のライフサイクル（イメージ）>

